

和

平成18年9月8日(金)

No. 30

文責：北澤

市浦小学校5年学級通信

シジミ・しじみ・蜆 ～校外学習に行ってきました～

9:40 ～ 工藤 朗さんの漁師小屋前到着。

もときくんを先頭に道路から歩いていきました。

「ジャリ、ジャリッ。」

足下の音が変わりました。

「先生、ここの下、シジミの貝だ!!」

小屋には、すでにもときくんのお父さんとお母さんが待機してくださっていました。



そして、作業の説明が始まりました。水曜日は禁漁日となっていて(バス確保の都合上)、残念ながら船上の作業を見ることはできませんでした。しかし、【じょれん】をどのように操作するのか、また、どのくらいの重さなのかをいねいに教えてくださったので、子ども達のメモをとる手にも力が入っていました。特にシジミを選別する機械が動く様子や、海の深いところで使う【スーパーじょれん】を見たときは、歓声があがっていました。

小屋の中では、機械で選別したものを水の中で、そしてふるいにかけてとさらにいねいに再選別をする作業を見ました。もときくんが見事な手つきでふるいにかけてみせる場面も。かなさんいわく、

「リズムカルで、慣れた手つきだった。」

とのこと。

お忙しい中、見学にご協力してくださった工藤さんにお礼のあいさつをして、次へ向かいました。



10:35 ～ 十三漁業協同組合到着。

シジミがほとんどないため、入札がどのように行われるのかの説明中心の活動となりました。【荷さばき場】といわれる冷房がよくきいた場所は、漁協の中でも県内で十三漁協だけとか。ビニールカーテンをあけて見せていただきながら説明を受けましたが、14℃設定というだけあって、流れてくる冷気が肌寒く感じられました。



11:20 ～ トーサム加工センター到着。

ガラス越しに、シジミドリンクが製造されている様子を見ることができました。3年生の時にも一度見学にきたということですが、今回は、シジミ漁で商品があげられてからどのような経緯でこのトーサムにきているのか、流通の流れをつかめたと思います。質問に答えてくださった山内専務さんが、絶妙のタイミングと間でお話してくださるので、聞いていて引き込まれました。



12:10 ～ 中の島フリッジパーク到着。

活動が一段落し、昼食タイムです。思い思いに友達と輪になって食べました。食後は船型の遊具で、汗だくになりながら鬼ごっこを楽しんでいました。悠太くんは、同行してくださった教頭先生と植物観察。【ツリガネニンジン】という秋の七草は、別名、津軽で【ととき】というそうですよ。



13:30 ～ 学校到着。

早速、それぞれの見学場所にあてたお礼状を書きました。